

『保育唱歌』 明治十六年 清水たづ譜

「保育唱歌」とは、明治10(1877)年11月から数年にわたり、宮内省式部寮雅楽課の伶人24名と保母1名によって作曲された、本邦初の教育用唱歌の総称である。「保育唱歌」の楽譜は、雅楽家や保育関係者によって書き写され、まとめられたものが今に伝えられており、本学に所蔵されている『保育唱歌』もその一つである。それらは、雅楽の伝統的な記譜法に倣った墨譜で、その曲調も雅楽の伝統に大きく依っている。

当時、唱歌教育はまだ行われておらず、その教材もなかった。そのため、東京女子師範学校(現お茶の水女子大学)の摂理(校長)であった中村正直(東京女子師範学校就任期間:1875年(明治8)11月-1880年(明治13)5月、女子高等師範学校就任期間:1890年(明治23)3月-1891年(明治24)6月)は、唱歌教育の重要性を感じ、まず同校附属幼稚園にて唱歌教育を行うべく、その教材作成にとりかかったのである。その手始めとして、フレーベル主義幼稚園教育書の翻訳が行われ、その翻訳書である「幼稚園」「幼稚園記」の中からも保育唱歌の歌詞が選出されている。その後、明治10(1877)年11月27日の同校附属幼稚園開業式において、皇后、皇太后の行啓の折、遊戯・唱歌を御覧に入れるため、同年9月、中村正直によって式部寮にその作曲が依頼、「冬燕居」「風車」の2曲が送られ、上申された。これを機とし、数年間で百曲余りの保育唱歌が作成されることとなる。

ここに挙げた『保育唱歌』の曲集は、1883(明治16)年、東京女子師範学校師範科在学中であった清水たづが、当時、当校に教授にきていた宮内省伶人から修業した保育唱歌を書き記したものと考えられ、85曲が収められている。清水たづ(のち、下田たづ)は、1885年(明治18)7月に東京女子師範学校師範科を卒業、大阪市西區幼稚園保母、東京市麴町區麴町女子小学校訓導を経て、1887年(明治20)から1914年(大正3)まで27年間、東京女子高等師範学校附属幼稚園に保母及び生徒監として奉職している。

「保育唱歌」の譜は、「宮・商・角・徴・羽」等の博士を用いて音高の指示、旋律の動き等を示している。たづの『保育唱歌』には、曲題以外の項目(歌詞の出典・作詞者、「遊戯」「五声唱歌」「七声唱歌」「高等の部」の四分類、調及び旋法、拍子、撰譜者及びその等級、伴奏楽器等)の記載は、すべての曲に書かれているわけではない。

たづは、「十二律名」、「十二律活用」、「五声」、「七声」の説明を記しており、「五声」とは、「宮・商・角・徴・羽」の5つ、「七声」とは、「呂」においては上記の5つに「嬰徴」と「嬰宮」を、「律」においては「嬰羽」と「嬰商」の2つを加えた7つの音によって歌われることが記されている。「遊戯」「高等の部」についての説明は書かれていないが、「遊戯」とは、動きを伴いながら歌うもの、「高等」とは、「呂」の「宮・商・角・徴・羽」を用いた五声唱歌と、七声唱歌の中でも難しいもの、と考えられている。

尚、本学倉橋文庫には、「保育唱歌」の歌詞をまとめた『幼稚園唱歌』も所蔵されており、Tea Pot 内、『保育唱歌集』及び、『「保育唱歌」解説』を参照されたい。

文責：東元りか（お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科博士課程在籍 2009年5月改定）